

第2回多治見市地域包括支援センター運営協議会議事録

日 時：平成31年3月8日（金）

13:30～14:30

場 所：精華地域包括支援センター 2階

出席： 荒木登志枝委員、後藤達彦委員、長江一鶴代委員、三原理智委員、
山崎智子委員、山田隆司委員、山中利仁委員（アイエト順）

欠席 加藤佳子委員、鬼頭弘一委員、木村ゆき子委員

事務局

福祉部：富田部長

高齢福祉課：杉村課長、加藤リーダー、金子リーダー、早瀬

社会福祉協議会 地域福祉課：澁谷課長

精華地域包括支援センター：森

北栄地域包括支援センター：棚瀬

事務局

定刻となりましたので、ただ今から平成30年度第2回多治見市地域包括支援センター運営協議会を開催します。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。資料1から9までと地域包括支援センターが実施した事業のPRちらしやかかわら版を事前に郵送させていただきました。なお、資料1、2について数値に訂正がありましたので差し替えの資料を配布させていただきました。では、はじめに、福祉部長からあいさつ申し上げます。

部長

現在の第7期の高齢者保健福祉計画において、地域包括ケアシステムの強化を一番目に掲げています。今年度から設置しています生活支援コーディネーターは高齢者の生活支援サービスの体制整備を関係機関と連携し、第1層協議体を開始しました。一部の地域では第2層協議体の形もできつつあります。市議会の方では最近、認知症対策について一般質問を多くいただいています。徘徊高齢者へのGPS機器の利用、見守りシールなどについても研究をすすめていきます。新年度予算については、民生費は150億円で全体の37%を占めています。高齢者の方が元気で長生きしていただくとともに、地域で支え合う社会をめざしていきます。

事務局

それでは、ここからの進行は、会長をお願いします。

会長

あいさつ

これより議題に入ります。議題1 平成30年度事業実施報告について、事務局から説明願います。

事務局

—資料に基づき説明—

資料1 平成30年度地域包括支援センター事業報告

資料2 平成30年度認知症地域支援推進員活動報告

会長

事務局の説明について、ご質問やご意見はございませんか。

後藤委員

相談事業の中で包括的・継続的ケアマネジメントの「ケアマネの日常業務に関する個別支援」と「困難事例への相談」の数値に各包括、ばらつきがあるのはなぜですか。

事務局

実際にどちらにカウントするとよいのか判断に迷うものが多いようです。ど

ちらに重点があるかで決めているようです。
 後藤委員 包括で決めごとをしないと、集計をとる意味がないですね。
 事務局 そうですね。包括職員の集まり等で検討します。
 後藤委員 相談者で市役所とありますが、なぜですか。
 事務局 市役所といいましても、水道課や市営住宅の担当者などいろいろな課から相談があります。
 後藤委員 地域ケア会議は包括毎に回数が違いますが、随時行われていますか。定期ですか。
 事務局 問題が起こった時に随時行っています。
 会長 他に意見はございませんか。
 委員 —他に意見なし—
 会長 平成 30 年度事業実施報告について、了承します。
 事務局 それでは、次の議題に入ります。議題 2 平成 31 年度事業計画について、事務局から説明願います。
 事務局 —資料に基づき説明—
 資料 3 平成 31 年度多治見市地域包括支援センター事業活動指針
 資料 4 平成 31 年度多治見市地域包括支援センター事業計画
 資料 5 平成 31 年度多治見市地域包括支援センター事業委託予算
 資料 6 平成 30 年度予防給付ケアマネジメント業務再委託契約事業所
 資料 7 平成 31 年度予防給付ケアマネジメント業務再委託契約予定事業所
 会長 事務局の説明について、ご質問やご意見はございませんか。
 委員 —特に意見なし—
 会長 平成 31 年度事業計画について、了承します。
 事務局 それでは、次の議題に入ります。議題 3 認知症初期集中支援チームの活動状況について、事務局から説明願います。
 事務局 —資料に基づき説明—
 資料 8 認知症初期集中支援チームの活動状況について
 三原委員 1 年間で何人くらいを見込んでみえますか。
 事務局 1 カ月に 2 件くらいあるとよいかと見込んでいますが、なかなかケースとしてあがってきていないので周知をしていきたいと思えます。包括単独でも支援できますが、支援チームで関わることでいろいろな意見交換ができ、サポート医のアドバイスもよいので、チームとしての利点を活かしてつなげていきたいです。対象者は、介護保険を利用していない人、医療にかかっている初期の段階の人なので、そのような方を、なるべく早い段階でつなげていくことが目的です。家族の認識がないとつなげていくのは難しいです。
 山崎委員 サポート医は認知症の専門医ですか。
 事務局 認知症サポート医研修という研修会を受けていただいた先生です。
 会長 サポート医はどのようなサポートをしますか。
 事務局 チーム会議の中で助言、アドバイスをいただいています。医学的にみていただき、「このような状態の方は認知症のアルツハイマー型のようなですね。」とか、「今後、このようなことが起こるかもしれないですね。」などご助言いただき、今後気を付けたいことなどチームで話し合うことができます。
 後藤委員 私も 2 日間研修を受けてサポート医になりました。サポート医は厚労省が 5 - 6 万人養成しました。初期の段階の人をみつけるためにどう努力するのか

が大変です。かかりつけ医のいない医療にかかれていない人をどのように見つけてつなげていくのが大切です。

山崎委員
後藤委員
会長
委員
会長

イメージとして精神科の先生や神経内科、脳神経の先生と思っていました。サポート医は研修を受けた医師です。いろいろな科の先生がみえます。他に何か質問や意見はありませんか。

—特に意見なし—

これで、認知症初期集中支援チームの活動状況について了承します。

今までの中で、ご質問等はありませんか。

後藤委員

事業実施方針の中で、5ページ目下、介護予防ケアマネジメント事業の①ですが、「介護保険が望ましいか、総合事業が望ましいか」判断するのは誰ですか。

事務局

包括に相談にみえるので、相談に応じて介護保険申請がよいのか、今はデイサービスやヘルパーの利用は総合事業でも可能なので、話し合いをして決めていきます。

後藤委員
事務局
会長
事務局
会長

誘導しているのですか。

相談して決めます。

適切なサービスが提供されるような支援をするという感じですか。

はい。そうです。書き方を替えます。

他にはいかがですか。

これをもちまして、第2回多治見市地域包括支援センター運営協議会を終了します。